

令和8年度特別選抜「小論文（外国語の読解を含む）」

解答例および出題のねらい

問1 要約

本当の慈善活動とは、寄付行為にとどまらず、公平さと共感、責任の価値を実際に生きることである。そしてこうした慈善活動が国際機関と連携することにより、地球規模の変革力になりうる。

たとえばビル・ゲイツは、「誰もが、命を守るケアを平等に受けるべきである」との信念に基づき、WHO と連携した慈善活動をおこなっている。レディー・ガガもやはり、思いやりと共感という価値のもとで、WHO や国連と関わりながら若者の精神的健康にかかわる慈善活動をおこなっている。

歴史を遡って19世紀において、アメリカ全土で多数の公共図書館建設に貢献したアンドリュー・カーネギーは、富める者の道徳的義務についての自覚のもとに慈善活動をおこなっていた。この理想は現在の国連の目標に反映されている。同様にジョン・D・ロックフェラー・シニアも、科学と慈善を結びつけることで、長期的な地球規模の課題に取り組むことを信条としており、彼の活動がWHOの基盤のひとつとなった。

以上4名の篤志家は、崇高な価値観にもとづき、国際機関と連携しながら慈善活動をおこなってきている。慈善活動とはただの金銭的寄付にとどまらないことがわかる。こうした高い価値観にもとづく慈善活動は、世界における変革に大きな影響を与えている。

問2 出題のねらい

- ・慈善活動は、国家や企業などにとって取り組むことの難しい貧富の格差や自然環境問題といったさまざまな課題への対処において、とても大きな貢献を果たしてきた。しかしその一方で、こうした慈善活動がこれらの課題を生じさせている構造的問題を根本的に解決することを阻害し、結果として当の課題を存続させている、との批判的見解もある（近年の学術的批判の一例として、Rob Reich, 2018, *Just Giving: Why Philanthropy is Falling Democracy and How it can Do Better*, Princeton U.P.）。
- ・慈善活動がもっているこうした複雑な含意について、どの程度自覚して議論を展開できるかを、評価する。